

生徒の学びや進路選択、その後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として解説します。

ひとしんせい・じんしんせい
人新世

人類の経済活動が、地球全体を覆い尽くした

18世紀後半の産業革命以降、人類の経済活動が地球に与えた影響は甚大で、その痕跡は地球全体を覆っています。都市はコンクリートなどの人工物で埋め尽くされ、大気は二酸化炭素の濃度が高まり、海はプラスチックごみなどによる汚染が深刻です。そうした状況を踏まえ、オランダの化学者パウ・クルツェン(*)は、地質学的に見て、地球は人類が地質や生態系に大きな影響を与える新たな時代に突入したとして、「人新世」という概念を提唱しました(図)。地質学の国際組織「国際地質科学連合」に公式に認定された時代区分ではありませんが、学術の世界では、今や自然科学を超えて、哲学や歴史学、経済学など、多様な分野で注目され、論じられている概念です。

「人新世」の概念は、先進国を中心とした資本主義社会に大きな課題を突きつけました。その最たるものが、気候変動問題です。人類が化石燃料を大量に使用し、二酸化炭素を排出し続けた結果、地球の平均気温は上昇し、過去に類を見ないような異常気象や自然災害が起きています。

新型コロナウイルスの感染拡大も、「人新世」の産物と言えるでしょう。人類が自然の奥深くに入り込んで未知のウイルスと接触したり、特定の家畜を大量生産したりすることにより、

ウイルスの繁殖や突然変異が起こりやすくなっているのです。

資本主義のシステムは、人類が起こした負担を巧妙に「外部」に押しつけることで成り立っている部分があります。例えば、先進国の便利で豊かな生活は、発展途上国における低賃金労働や環境破壊に支えられてきました。ところが、資本主義による経済活動が地球全体を覆いつくした結果、「外部」となる場所がなくなってきました。地球上のあらゆる地域で自然災害が起こりやすくなり、また、経済格差の深刻化など、資本主義の抱える問題が顕在化しているのです。

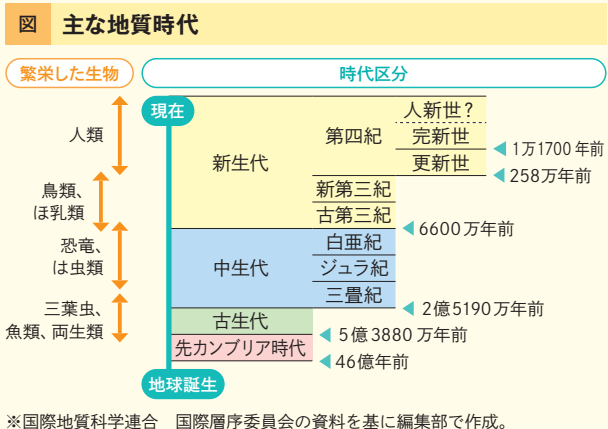
3.5%の人が本気で立ち上がれば、社会は変わる

人類が直面している危機的な状況を打開するためには、旧来の価値観を根本的に変えて、新たな社会を創出する必要があります。技術革新による解決が期待されていますが、「外部」に負担を押しつけて繁栄する構造が変わらないのであれば、根本的な解決にはならないはずで

すが、もし、節電や寄付をただで満足しているとしたら、問題の本質を理解することができていないとも言えません。どこまでも経済成長を追い求め、大量消費や長時間労働をあたり前とする価値観そのものを見つめ直す時期に来ているのではないのでしょうか。

そのような複雑で難しい問題を解決するためには、物事を批判的に捉え、判断するクリティカル・シンキングや、文理にかかわらず、幅広い視点から物事を捉えるリベラル・アーツが欠かせません。そして、問題が起きている現場に足を運び、そこで感じた問題意識を出発点に学びを広げ、自分ができることを考えて、行動につなげる姿勢を持つことも重要です。

今の若い世代は、人口が少なく、社会的に影響力を持ちにくい状況かもしれません。しかし、社会変革の事例の研究では、3.5%の人が本気で立ち上がると社会全体が大きく変わるというデータがあります。地球の行く末は、まさに私たち一人ひとりが本気で行動するか否かにかかっているのです。



※国際地質科学連合 国際層序委員会の資料を基に編集部で作成。

解説者



東京大学 大学院総合文化研究科 准教授
齋藤 幸平 さいとう・こうへい

専門は経済思想・社会思想。マルクス経済学などをベースに新たな社会システムのあり方を提言。日本人初、歴代最年少で「ドイッチャー記念賞」を受賞。著書に『人新世の「資本論」』（集英社）等。

VIEWnext ONLINEでは、トレンド・ワードについて、誌面でお伝えしきれなかった内容を「学ぶ・働く・暮らす」の切り口で解説しています。右記の2次元コードからアクセスし、ご覧ください。



* フロンガスによるオゾン層破壊の研究で、1995年にノーベル化学賞を受賞。